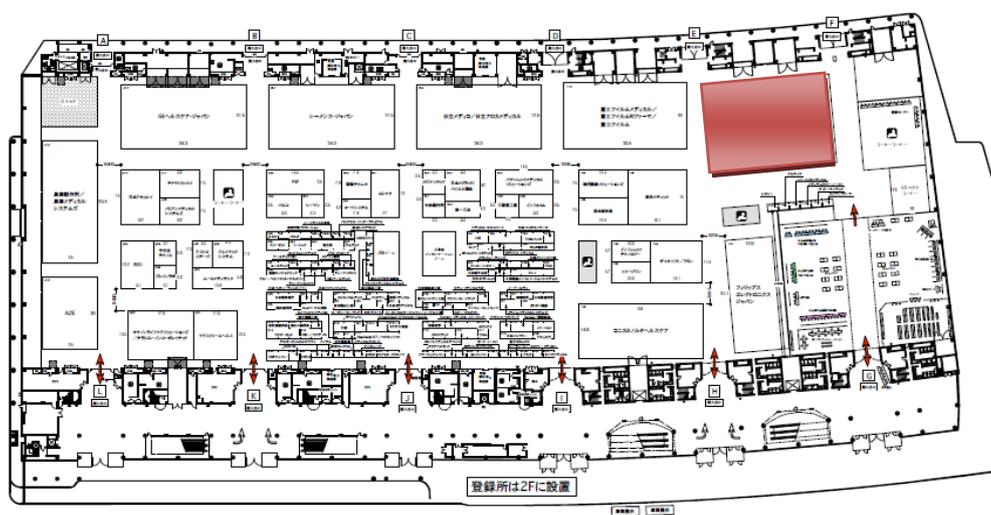


2014 国際医用画像総合展 (ITEM2014) に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

国際医用画像総合展 (ITEM2014) は JRC2014 に合わせてパシフィコ横浜・展示ホールにて開催される、最新の医療画像機器及び周辺機器を一堂に公開する総合学術展示会である。

実機が置いてあり、その場で初めて発表する機器が展示されているので、展示場はメーカーの人、お客さんで一杯だ。ただ、今年は Cypos 会場を別の場所に移動したので、昨年のような息苦しさは少し緩和されていた。東芝ブースも昨年の 600 m²から 800 m²に大きくしていたので、いつもの東芝職員だらけの状況から脱却したようだった。



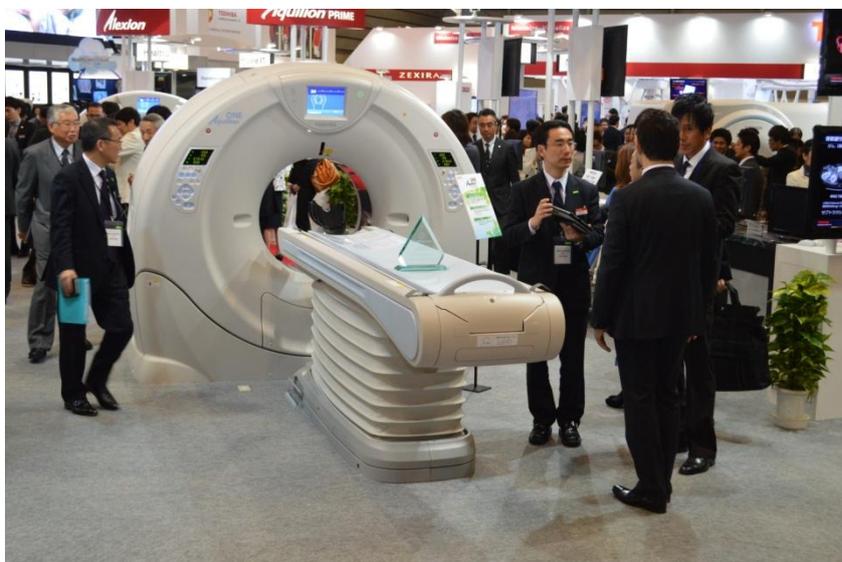
ITEM2014 の会場全体レイアウト 赤枠部分が東芝ブース

私は買い物かごをぶら下げながら、どのMRを買おうかな？どのX線TVを買おうかな？フラットパネルはどこにしようかな？などとふらふら説明を聞いていた。と言うのも、当院では一昨年東芝のCTを導入していたためにCTは購入対象ではなく、このユーザー会のメインであるCTに対しては本気度の薄い情報収集になってしまった。

それでも各社光るものはあった。GE :Revolution CT の 0.2s/rot スキャン ASiR-V の話。シーメンス:SOMATOM FORCE の X 線管 VECTRON と検出器の組み合わせによる高分解能 (0.24 mm) の話。PHILIPS : 2層検出器と IMR PLATINUM の話。

東芝ユーザーが中心のユーザー会なので東芝CTブースにもちょっと触れておくと、東芝は AquilionONE ViSION と、AquilionPRIME の実機展示と (これだけでは新しさが感じないが)、参考展示として AquilionPRIME と Angio 装置を組み合わせた Angio-CT が展示されていた。アプリケーションでは冠動脈サブトラクションや金属アーチファクト低減処理機能 SEMAR などがアピールされていた。

また、新しい発表として奥のモニタでは、今、CTの世界では注目をあつめている Full IR (画像にはデータ提供：広島大学病院と書かれていたので広島大学と研究している?) と 4D-CT に特化したアプリケーション (どちらも W. I. P.) の紹介が行われていた。



写真：東芝 CT ブースの様子

まあ、それぞれホントかな? と思いながら興味深く聞かせていただいた。もし、道内の施設で導入するところがあったら見学させて下さい。

全部を詳しく回るのはすごく大変、クタクタになる。お相手をしてくれる説明員もクタクタな表情を滲ませながら、みなさん頑張っていた。(説明員の対応によってその商品がよく見えたり、悪く見えたりするのも事実なので、ここが正念場か!)

そうそう、(A野さん率いる)東芝CTアプリケーションスペシャリストの女性群はコンパニオンと一緒にヘッドセットでプレゼンを行い、とても生き生きとしていたらしい。イベントごとは楽しんでやる! 大事なことだと思います。

それぞれのブースの紹介は取材記事のほうが詳しいので下記アドレスでご確認ください。

<http://www.innervision.co.jp/report/item/2014>